

常総市長 高杉 徹 様
常総市水害対策本部 様
常総市議会議長並びに全議員 様

2015年12月24日

常総市水害・被害者の会

共同代表世話人

同

緊急申し入れ書

12月20日に「泣き寝入りはゴメンだ」と「常総市水害・被害者の会」が発起集会を開いたことについてはご承知のことと思います。高杉市長におかれましては被害者の発言に熱心に耳を傾けていただき感謝しております。

その場で若宮戸の方から「親の代から自然堤防の砂はバケツ一杯、木1本とも持ち出しではダメといわれてきた。国交省が禁止していた。しかしソーラーパネル設置で堤防掘削のときは国交省は何も言わなかった」という発言がありました。今回の水害の大きな要因の一つがこのメガソーラー業者による自然堤防掘削にあることは明白な事実です。

ところがこの業者は今また再設置の工事を始めています。被害者は水害の元凶となったソーラーパネルを二度と見たくありません。その工事を目にする周辺住民はパニックに陥っています。

設置業者は、被害者に謝罪する気持ちはないのか？私有地だからといって、こんなに凶々しく、利潤追求をやっているのか？被害者が今もどんだの非日常生活を余儀なくされ、未曾有の苦しみを味わっているとき、被害者の身になって考える道義的責任や当たり前の市民としての良識はないのか。傍若無人振りに被害住民は強い憤りを抱えているのです。

同じ業者が筑波山でソーラーパネル設置のために木を伐採したと報道されています。

つくば市議会は「木を切ることは土砂災害が起こる。筑波山の景観をそこねる」と「差し止め」を決議し、住民説明会も要求しているとのこと。ひるがえって常総市議会ですが、常総市長だけでなく坂東市長も参加した12月20日の「常総市の戦後最大の危機を突破するためにはオール常総で取り組むしかない」という立場で開かれた被害者集会には3人の議員しか参加しませんでした。常総市と常総市議会検証委員会は若宮戸を視察していると思いますが、何のための検証委員会なのでしょう。若宮戸の現状を視察したのなら、被害住民の心情を忖度して「これはまずい。止めるべきだ」とは考えなかったのでしょうか。検証を否定するものではありませんが、まずこの工事を中止させ、住民に謝罪と弁償をさせるように取り組んでいただきたいと思います。再設置する費用があるのなら水害被害者への謝罪と弁償に充てることを「市民の代弁者」として強く要求して下さい。

- 1, メガソーラー再設置の即刻中止を求めること。
- 2, 業者は被害市民への謝罪と弁償をするよう求めること。
- 3, 別件ですが、「住宅の応急修理制度」受付を12月27日に打ち切るのではなく、現状を丁寧に把握し、実態にみあった延長をはかること。

常総市長 高杉徹 様 同常総市対策本部様 同市議会議長並びに議員様
国土交通省大臣 石井啓一様 同関東地方整備局長様 同下館河川事務所長様

2015年12月28日

常総市水害・被害者の会 共同代表世話人
同

同
同

被害者の会緊急申し入れ書その2(20151228)

貴職におかれましては常総市災害に心を痛め、被災された常総市民と常総市の再建・再生のためにご尽力いただき感謝致します。

来年1月11日に「鬼怒川緊急対策プロジェクト着手式」が開かれるという発表があります。また12月24日(三坂)と25日(若宮戸)国土交通省下館河川事務所は説明会を開き、計画概要を明らかにしたと報道されています。

「常総市水害・被害者の会」(以下被害者の会と略す)は以下の理由からこれらの説明会やプロジェクトの進め方に異議を申立て、かつ改善を要求致します。

1. なぜ説明会を一部の区長、地域対象などと限定するのか。被害を受けているのは鬼怒川東側のほとんどすべて含む世帯であり、被害したすべての住民に対して説明する責任が国交省にはあるのではないですか。私達は以前から、速やかに国・県・市主催の説明会を全住民対象に開くべきだと要求してきています。一部の人間に説明したことと手順を踏んだとするアリバイづくりをしているのですか。何をこそこそやっているのですか。民主主義の原則は「公平・公正・公開」であり、主権はすべての国民・住民にあるのあってそこに差別を持ち込む理由はどこにもないはずです。
 - ① なぜ常総市は開かれた会を開くべきなのに、国土交通省の「閉じた」説明会を容認するのか。開かれた会となるよう国土交通省に要求することを求めます。
 - ② 説明会や着手式などを開く場合、一部のみに知らせるのではなく、すべての被害者に知らせること。また参加を希望するものが参加できる会とするよう国交省に市は申し入れることを要求します。
 - ③ 国交省はすべての被害者と常総市民に対して、今行っているような説明会を早急に開くこと。
2. どのような堤防をいつまでに、どのような手順で進めるかなどは被害者は勿論、鬼怒川流域に住む全常総市民の問題です。地権者の同意を得ることは勿論ですが、常総市民全体に説明責任を果たしながら進めるべきです。一部住民が理解すればいいとするならそれは大きな間違いです。一部市民がすべての被害者と常総全市民に参加した責を負って説明するのですか。その責を果たすことなどできないはず。築堤を早急にすべきことは当然のことですが、だからといって住民が納得できる築堤かどうか判断する場を設定しないで良いわけがありません。なぜ今回の水害が起こったのか。どこにどのような問題があったからどのように改善した築堤をするのか、その説明をし、常総市民全体が納得できる築堤を進めるべきであって、その説明なしの築堤を急ぎ、「築堤を急いで進めているから、住民は黙ってそれを見ていればいい」と考えているとしたらしたら、傲慢も甚だしいといわざるを得ません。
 - ① 国・県・市は上述した「今回の築堤に至る経過を原因も含めて明らかにして」すべての被害者と常総市民を対象にした、住民説明会を早急に開くことを求める。常総市はそのことを国と県に要求する責任を果たすことを求めます。
 - ② 三坂地区では住民とマスコミに開放し、若宮戸地区では区長以外、住民・マスコミも排除するなど、矛盾したことをやっており、容認できるはずがありません。このようなでたらめな対応に強く抗議します。説明主体の国交省に対しても、それを容認している常総市当局にも抗議します。こんないい加減な対応をしているから、常総市民はいつまでも救われないのです。

以上、クリスマス中も苦しみ、来るべき新年も気持ちよく迎えることができない常総市民の声を被害者の会が代弁しました。常総市は市民の声を真摯に受け止め対処して下さい。国交省は「瑕疵あれば責を負う」という法に基づく真摯な態度で、すべての被害者に対して説明責任を果たすことを求めます。